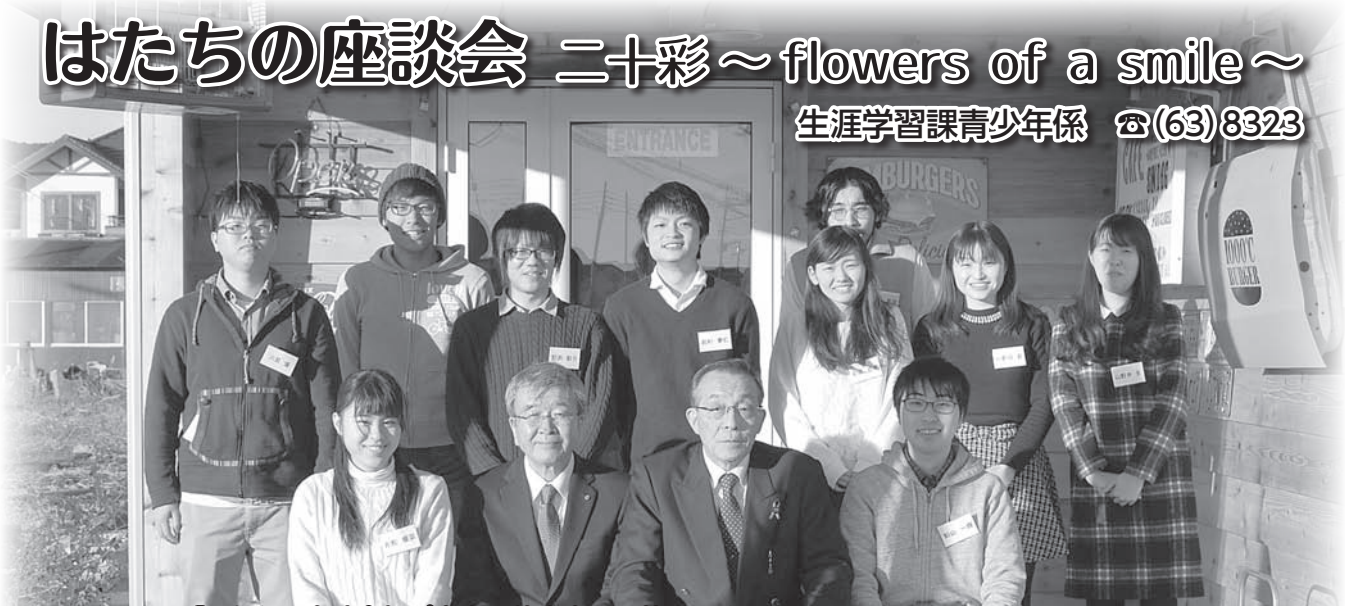
はたちの座談会 二十彩～flowers of a smile～

生涯学習課青少年係　☎(63)8323



1月24日、「はたちの座談会」が市内の飲食店で開催されました。

市長と教育長、成人の日実行委員を務めた新成人9人と司会役の実行委員OBを合わせた12人が参加。座談会は全員で同じテーブルを囲み、フリートーク形式で行われました。

初めは緊張していた新成人たちですが、開放的な雰囲気で会話を交わすうちに気持ちもほぐれ、貴重な意見交換の場とすることができました。

「成人の日のつどい」を企画・運営して

飯山　委員長を務めたことで、代表者あいさつなど貴重な経験がたくさんできました。今後の学業や就職活動に生かしていきたいです。また、周囲のサポートのおかげで良い式典となり、大変感謝しています。

大貫　誓いの言葉の内容を考えるのに苦労し、何度も市のホームページ等を見て勉強しました。前日の会場準備やリハーサルなどは大変でしたが、大きな達成感がありました。

永松　同年代が集まり、やりたい企画を話し合ったことはとても良い経験になりました。総合司会は緊張しましたが、雰囲気を楽しんで行えました。

市長　率先して実行委員会に参加し、企画・運営していく中で、自分の新たな一面を発見できたのではないでしょうか。自分では気付かなくても、確実に成長していると思いますよ。

教育長　それぞれが役割を持ち、責任という重圧の中で活動できたことは素晴らしい経験になったと思います。

参加者

後列左から

大貫　優さん、小野寺　玲さん、屋渕　駿介さん、髙村　夢仁さん、荻原　也美さん、髙村　嘉謹さん(実行委員OB)、小野口　彩さん、山野井　愛さん

前列左から

永松　優菜さん、高橋　臣一教育長、佐藤　信市長、飯山　一輝さん

「成人の日のつどい」誓いの言葉

将来の「夢」について

山野井　大学で心理学について学んでいます。将来は臨床心理士になり、子どもたちのメンタル面を支えていきたいです。

小野口　保健師になるための大学に通っています。来年からは実習が始まるので、これまで蓄積してきた知識を定着させ、実践で発揮できるよう頑張ります。

荻原　保育士になるため大学で勉強しています。これからの子どもたちに合った保育ができるよう学び、将来は鹿沼で就職したいと考えています。

市長　専門性や必要性が高い職種を希望している学生が多いですね。鹿沼市でも募集している職種があるので、ぜひとも挑戦してもらいたいです。

月1回のペースで重ねた企画会議

教育長　鹿沼市では、スクールカウンセラーとして中学校区に1人、非常駐職員を配置しています。今後発達障害等を抱える子どもが増えるとも言われているので、高い専門性が要求されます。大学の勉強だけではカバーできないこともあるため、経験の積み重ねが大切になってくるでしょう。前向きに頑張ってほしいと思います。

こんな大人になりたい！

屋渕　周りに影響を与えられる人になりたいです。将来は鹿沼市の職員となり、市に貢献したいと思います。

小野寺　宇都宮ブリッツェンという自転車ロードレースのプロチームに所属しています。

　自転車選手が子どもたちの夢の選択肢の一つとなるよう他の選手とは違う走りや勝ち方をして、ファンを楽しませたいです。最終目標は、ウィキペディアに載るくらいの有名な選手になることです。

「子どもたちに夢を持たせたい」

「打たれ強く弾力性のある大人に」

市長　いろいろなことを経験して、打たれ強く弾力性のある大人になってほしいですね。

　また、相手を思いやる気持ちを忘れず、心をつなげる人間関係を築くことも大切だと思います。

「夢を持つと人は強くなる」

教育長　人は夢を持つと強くなります。20歳を迎える今の時期は、目標に対して具体的な対応を考える良い機会だと思います。人は一人では生きていけないので、相手の気持ちを考えられる大人を目指してほしいですね。

鹿沼のキャッチコピーと参加者の鹿沼への想い

飯山　秘めている可能性を考えて、「眠れる獅子、かぬま」はいかがでしょうか。

大貫　鹿沼は自然が豊かな木工のまちで、ぶっつけ秋祭りの屋台も有名です。それを総称して「フォレストタウン鹿沼」も良いと思います。

市長　首都圏から近く、自然も豊かでたくさんの魅力がありますが、鹿沼の知名度はまだまだ高くありません。「眠れる獅子、かぬま」はそのあたりを良く表していると思います。

　「フォレストタウン鹿沼」についても、木工関係で鹿沼を表すフレーズはいくつかあるので、総称するには良い表現ですね。

小野寺　木を使用した施設を増やして、スポーツチームが合宿等で集まる地域を目指すのはいかがでしょうか。選手の立場からすると、他競技の選手との交流や情報交換ができる場があれば、競技人生を豊かにできると思います。

市長　合宿等の誘致については、文化面も含めて視野に入れています。これから少子化により施設が余ることが予想されます。それらを街づくりに有効に活用できればと考えていますが、交通手段の面がネックとなっているのが現状です。

教育長　鹿沼に呼び込むことも重要ですが、実際に住んでいる皆さんは、ずっと住み続けたいと思いますか？

髙村(夢)　仕事のために宇都宮まで通っています。鹿沼は住みやすくて好きですが、職場との距離や交通手段を考えると、今後転出する可能性もあります。

小野口　働き口が悩みどころです。実家から通える範囲で就職したいのですが、難しい場合は市外に就職し、居住するかもしれません。

荻原　市内で就職し、暮らせるよう行動していきたいと思っています。

「鹿沼の自然が好きだから」

屋渕　鹿沼の自然が好きで、カメラで撮影するのが趣味です。たとえ市外に就職することになっても、鹿沼から出るつもりはありません。

永松　県内で暮らしたくて今の職を選びました。これからもここで暮らしていきたいです。

教育長　皆さん真剣に考えていて、頼もしいですね。

　これから先、挫折することがあるとしても、悔いのないよう取り組み、経験を積んでもらいたいと思います。

市長　熱心な想い、ありがとうございます。

　入口でつまずくと立ち上がるのが難しい社会になっていますが、無駄な経験などはありません。前向きに取り組んで、今後も励んでください。

和やかに進む座談会

座談会を終えて
～参加者の感想～

・市長や教育長の貴重な意見を伺えて勉強になりました。

・鹿沼の未来について真剣に考える良い機会になりました。

・自分が鹿沼市に何ができるか考えていきたいです。